

『設備屋が一級建築士を取得する！！！！まで』

(有)クラフト設備設計

栗 木 薫

私は大学の電気工学科を卒業し、昭和63年の第1回建築設備士受験に合格し設備設計業を営んで、二十数年。そこに突然、嵐が吹き込んできました。

建築士法の改正で、設備設計一級建築士なる資格が創設され、平成20年1月まだ正月の御神酒も残っているところに、某資格学校から1通の手紙が来たのでした。

それは、建築設備士既取得者は実務経験4年以上で一級建築士の受験資格が与えられることになる予定、早速勉強を始めましょう・・・との内容でした。

確かに、大学の電気工学科卒では、一級建築士の受験資格は有りません。それには二級建築士を取得後4年間の実務経験でやっと受験資格が得られるのですから、私が、どんなに頑張っても、この先数年の歳月が必要になる訳です。

54歳からの数年間では、60歳近くになってしまいます。それが、建築設備士で受験資格が得られるなら・・・と心が動かされました。

早速、手紙につられ、市内の資格学校を訪ねました。ところが正式に受験資格が変わるのは3月頃とのこと。もし変わらなかったらどうするのと訪ねたら、全額返金しますとの返答。

この歳で、本当に合格できるのか？と次の質問。

担当営業は、毎週の講義に出席し、宿題を提出してくれば、絶対大丈夫！！との弁。

本当か？？？と押し問答・・・。

まあ設備設計一級建築士資格が無いと、業務上不都合が起こることも予想されるので、ここは頑張るかと自分に言い聞かせ、数十万円の費用を振り込みました。

実は、ここからが、地獄の2年間の始まりでした。

早速、その週の日曜日から、学科試験の講義が始まりました。試験は旧試験内容のため、4科目100問5択問題です。計画・構造・法規・施工どれをとってもさっぱり解りません。特に構造の力学問題は、全くアウトです。どうも、みんなは前年の秋から力学だけ先行して、学校に通い勉強を始めていたのでした。

そんなこと営業マンは一つも言っておりませんでした。あいたた一でした。

この間、1月中旬から7月の学科試験までは、毎週日曜日は早朝から授業、午後帰って夜まで復習。平日は夜、過去問題に挑戦、土曜日は日曜日の予習。祭日は補講。半年間休み無しで地獄の特訓でした。もちろん禁酒で、テレビは見ない、友人からのお誘いも当然お断り、出かけることもできませんでした。

そして、学科試験本番。学科試験は記憶力勝負です。この歳になると、昨日の食事内容も忘れてしまうのですから、それは大変、繰り返し、繰り返ししか方策はありませんでした。試験当日、資格学校に戻り答え合わせ。

そこでびっくり100点中77点。なんと苦手の力学は全問(6問)正答でした。足切り点が63点でしたので、無事8月上旬からの製図の講義に行き始めました。

この年の製図の課題は、フィットネスクラブ併設のビジネスホテルでした。基準階タイプなので比較的やさしそうだと、勝手に思い込んでおりました。

この間、毎週日曜日は、まるまる1日授業、土曜日は宿題を1枚、平日時間がとればもう1枚という感じで、三十数枚は、書き上げました。1枚書き上げるのに、エスキスから5～6時間はかかるので、この勉強時間を作るのが仕事でした。

練習枚数だけは、そこそこ、こなせたつもりで、まあまあ完璧と望んだ10月の製図試験でしたが、1階、2階そして基準階と3平面図、断面図、そこに2基のエスカレーター、5基のエレベーター

ターそしてペDESTリアンデッキ接続という3次元立体パズルが、なかなか解けず2時間半経過、未完成は失格ですので、無理矢理製図作業に突入・・・時間いっぱいかかってしまい、見直し無しで、終了のベルを聞きました。

試験の帰りに、基準階でエレベーターと階段のコマを入れ替えてしまい、上下階の不整合に気がつき、12月の結果は、予想どおりランクⅣ重大な不適合で失格でした。

エスキス図では、問題なかったのですが、実施図の時に魔が差して、ハンディキャップルームはエレベーターに近い方がよいとの講師の先生の言葉が聞こえてきて、あわててエレベーターと階段のコマを入れ替えてしまったのが原因でした。

11、12月はとりあえず試験が終わったので、一息の休息時間がとれましたが、正月明けから、次年度の製図試験対策に陥りました。

資格学校での製図のコースは、春からの長期コースと夏からの短期コースとがあります。費用が倍ほど違うので、選択に迷うわけですが、エスキスでの失敗がありましたので、泣く泣く長期コースに申し込み、またまた数十万円を振込み、2月下旬より、毎週日曜日、重い製図道具を担いで、今度は大宮まで通い始めました。

製図はもともと、勤めていたころ（30年前頃）は、ドラフターにて手書きで書いておりましたので、それほど苦労はしなかったのですが、エスキスはまるで初めてで、長年設備屋でしたので、与えられた建築図に設備図を書き込むのが仕事でして、さっぱりでした。

昨年、エスキスで失敗しており、今年は製図試験の角番（試験方法改正前の最終年で学科の合格の有効期間は翌年まで・・・現在は1年増えて、翌々年まで）ですので、エスキス作成時間をいかに短くするかとの戦いでした。

救いは、試験内容が変わり、昨年までのような三次元立体パズル問題は終わりとなり、意匠、構造、設備の総合力が試される製図試験に変わることでした。

とはいっても、新試験の初年度ですので、問題の傾向が解りませんので、どう取り組んでいったら良いのか資格学校同様に困っておりました。

この間も、毎週土曜日に宿題1枚、日曜日に学校で1枚書き、平日には、他の資格学校の問題も入手して、エスキスを考えたりの憂鬱な8カ月となりました。

そして製図試験当日、エスキス完成、新試験から追加された別紙の文章問題を先に終わらせ、最後に製図という順番で、今回は見直しも行い、終了のベルが聞こえました。

翌日からは、思い出し検討になるのですが、あれも忘れた、これも間違ったで、やっぱ今年もアウトと思っておりましたら、12月に合格通知が来ましたので、幸運でした。製図課題も事務所ビルでしたので、それほどエスキスも難しくなかったのも幸いしました。

思い返すに、設備屋になんで一級建築士資格が必要なのか、疑問ではありますが合格するための秘訣は

1. 絶対に資格取得するという強い信念をもつこと。
2. 不合格では、資格学校の高い授業料（2年で百数十万円）を捨てたも同然となってしまうこと。
2年間の貴重な時間も無駄になってしまうこと。
3. 勉強する時間をつくること。
4. 学校には必ず行き、宿題も提出すること。
5. 学校等で仲間をつくり、情報交換を行い、資格学校の教えがすべてでは無い、それらの判断は自分ですということ。そのための交流を欠かせないこと。

以上、建築学科を卒業していなくても、一級建築士は取得できます。

是非、私同様 設備屋さんも、一級建築士取得に向けて、挑戦してみてください。

55歳の私でも取得できたのですから、言い訳は無しです！！！！

振り返ると、2年間の憂鬱な時間と引き換えに、建築の勉強で得られたものは、有意義でした。私の人生の中で、こんなに真剣に勉強したことは、無かったでしょう。

挑戦される設備屋さんの参考になればと、忘れぬうちに書いてみました。

必勝を祈念致しております。頑張ってください。